

大阪民衆史研究会報

2025年5月号
第32巻第4号
(通巻355号)

発行 大阪民衆史研究会 (代表 林 耕二)

E-mail: osaka.minshushi@gmail.com (オーサカ ドット ミンシューシ)

例会のお知らせ

◇6月例会

日時 6月8日(日) 13時半開場、14時開会

会場 大阪府教育会館 3F菊の間

報告 岸 博実さん(日本盲教育史研究会事務局長)

「日本盲教育の歴史—文字への渴望：点字のある時ない時」

まず、「視覚障害」・「文字」について、一緒に考えましょう。言い換えれば、「見えないってどんなこと？」と「人間にとっての文字とは？」のお話。次に、一般の文字の特徴をおさえた上で、盲人のための文字の探求史をたどり、「ルイ・ブライユの点字」の長所を浮き彫りにします。さらに、わが国の「盲人と文字」の関係を、江戸期までと明治以後の順に追ひ、点字をめぐる現在の状況と将来をみつめます。キーワードは「暁天の星」から「満天の星へ」。そして、私の拙い作品「つぶらな わたし」もご紹介させていただきます。(岸)

◇7月例会

日時 7月13日(日) 13時半開場、14時開会

会場 大阪府教育会館 3F桜の間

報告 中尾恵子さん(一般社団法人日本ビルマ救援センター代表)

「ミャンマーの現状について—草の根の支援活動を通して」

民主化への道を進めていたミャンマーは、2021年2月、軍のクーデターによって、再び軍事政権の国へ戻ってしまいました。民主化を求める市民への弾圧、抵抗勢力への空爆は後を絶たず、打ちひしがれた市民に台風、洪水、大地震の天災が追い打ちをかける。国内避難民の数は350万人を超え、国民の3人に1人が支援を必要としている。日本ビルマ救援センターは、草の根のネットワークを繋ぎ、軍の手に渡らず、直接被災者に届ける支援活動を続けている。

参加費 会員 400円 非会員 500円